

# 市政懇談会開催記録概要【掛合町】

## 地域づくり・行政

### 【地域づくり】

#### ・地域要望

Q	合併して周辺地域が寂しくなったと思う。現在、松笠地区では住民が知恵を出し地域を盛り上げようと工夫しているところ。それに伴う地域要望をどんどん出していくので、よろしく願いたい。
A	地域自主組織が設立され、自分たちの町を自分たちでよくする活動を実践してもらっています。合併したことで周辺地域がさびれてはならないが、他の地域と比較するのではなく、自らの地域を住みよくすることが大切です。各地域で10年後、利便性が高まり、暮らしやすくなったと実感できれば、地域自主組織の活動成果が十分にあったと考えられます。そのために、地域要望は今年度もどんどん出していただきたいです。
Q	元上町自治会(波多地区)では、小学校が統合すると昼間子供たちの元気な姿が見えなくなり寂しくなると思う。そこで波多小学校の照明を2、3基増設して欲しい。春から夏にかけて、夕方にグラウンドゴルフ、ペタンク等をみんなで行えば地域も明るくなると思う。できれば、維持管理費込みで願いたい。
A	オンリーワン事業との整合性を図り、地域振興のための総合的な検討を行う必要があります。従って要望にある照明塔設置は、その検討後に可否の結論を出すことになりますので、ご理解のほどよろしく願います。

#### ・コミュニティー助成(自治会運営交付金)

Q	合併して、コミュニティーへの運営交付金が今年から削減される。入間は高齢化が進んでおり、老人の1人、2人世帯が半分である。コミュニティー強化が不可欠なので、活動の柱となっている交付金は、別枠でもいいので考えてほしい。
A	自治会運営交付金について、本年度から、行政連絡員の対価と組織の維持運営費としての交付金制度にしました。類似団体と雲南市を比べると支出の中で公債費と補助費が非常に大きいことが分かります。従って、中期財政計画では補助費を3年間で、25%削減することとしています。また合併前、補助金が一律でなかったものを、今後は一律にしていく方針です。地域の活動に対しては地域振興補助金の活用も考えられます。ご理解ください。

#### ・地域自主組織

Q	地域自主組織について詳しく説明してほしい。
A	各町で、地域委員会を中心に取り組まれているものです。掛合町では、7つのコミュニティ協議会で取り組まれています。合併に伴って行政区域が広まったために情報が行き届かないこともあります。そのため概ね学校区や公民館単位で地域住民が協力・連携して集合体を組織し、地域における課題や振興策を考えていただくことを主たる目的としています。また、各関係組織との連携・強力を行う場、自治会単位では取り組めないものを協議する場ともなります。場合によっては、行政が行う様々な委託事業の委託先として住民の皆さまに取り組んでいただくことも予想されます。
Q	自治会とコミュニティの関わりについて説明してほしい。
A	コミュニティ協議会(地域自主組織)は公民館や各関係団体を合わせた組織です。自治会との関係ですが、自治会を一つの集落と捉え、それらの集合体がコミュニティがということになります。以前入間自治会や波多自治会、松笠自治協議会がありましたが、それらがコミュニティとして一つの集合体となっています。これが地域自主組織ということになります。
Q	掛合町の場合、公民館というのはコミュニティとは別枠となるのか。
A	多根地区及び松笠地区、波多地区、入間地区の場合、各地区の公民館単位毎に一つのコミュニティが存在します。掛合地区の場合は、一つの公民館に対し、三つのコミュニティがあります。いずれにしても地域自主組織(コミュニティ)の中の一つの機関として公民館が位置しているとご理解ください。
Q	コミュニティへ加入していない自治会(中郡、下郡団地)があり、地域自主組織の役割を果たせない状況にあります。良い知恵があれば教えていただきたい。
A	民間アパートなど地域自主組織との連携が図れない状況は市内各所です。そうした場合、行政情報が行き届かないこともありますので、地域活動への参加協力を行うなど、様々な機会を通じて、地域との話し合いを持ちながら連携を図っていく必要があります。

#### ・ボランティア組織の設立

Q	入間は高齢化が進んでいる地区である。従って今年の雪で屋根が傷んでも誰も手伝いができなかった。雲南市としてボランティア組織の設立ができないか。
A	高齢化は全国的な問題です。雲南市でも、地域自主組織活動の一環として、ボランティア活動は必要だと考えています。地域と密着した活動内容なので地域自主組織(地域)、行政、社会福祉協議会などが、連携して仕組みを構築していくことが大切だと考えます。

**【行財政】**  
**・予算編成**

Q	掛合町分の普通建設予算が少ない。小学校の建設を除くと何もないように思う。
A	現在、雲南市では市全体としての生活基盤整備を優先的に進めています。そのため、年度ごとに地域によって予算配分が偏る場合もあります。

**・財政健全化**

Q	中期財政計画を見ると、普通建設事業費の額が急激に削減される計画となっている。こういう極端な削減が進められれば、雇用問題及び定住問題などに大きな影響を与えると思う。この点について、考えを聞きたい。
A	確かに、建設事業費が下がれば、建設業で雇用されている方の働く場所が無くなって来ると考えます。そうした状況を緩和するための雇用対策として、市では農外産業への取り組みも推奨しています。実際、農外産業に取り組んでいる、建設事業者もいらっしゃいます。また、誘致企業を計画しており、現在4社の誘致に成功しています。さらに、県事業あるいは国事業も有効活用し、雇用問題及び定住問題への対策に努めていきます。

**・施設管理**

Q	統合による保育所・小学校の廃止は仕方ないが、跡地利用についての原案が市より示されていない。どのように考えられているか。
A	保育所、学校跡地の利用に関しては、地域の皆さんの利に供するための活用方法を地域自主組織を中心に協議していただきたいです。市としても十分協力し、相談に乗ります。
Q	集会センターの管理委託料金は昨年と同額。昨今、石油価格の高騰で暖房費などの支出が大幅に増加している現状にあるが、そうした部分は考慮してもらえないのか。
A	石油価格の値上げは、波多温泉等の他施設運営にも大きく関係していますが、それらの施設も含め、現在昨年度と同予算で管理をお願いしています。しかし、このまま値上げが続けば、平成17年度決算の実態を考慮し、対応する必要があると考えています。
Q	合併浄化槽や、消防設備などの管理業者に支払う委託料は全く減額されていないのに、集会センター管理者(地元住民の方)への委託料だけをなぜ減額するのか。
A	市内施設の、合併浄化槽、消防設備は業者に一括管理してもらうことし、個々の管理料を安くする工夫を昨年度既に行っています。そのような経緯があるため本年度においては、減額措置がされておられません。
Q	平成20年に掛合小学校の新校舎が完成し小学校の統合が行われる予定である。波多小学校は3億8千万円で新築されてから10年と比較的新しい。この校舎を別途地区のシンボルとして有効活用して欲しい。
A	統合後の学校跡地の活用方法については、コミュニティ協議会の皆さまに地区ごとに検討していただくようお願いしているところです。校舎を活用できるのは波多地区のみです。地域の皆さまの意見を伺いながら、市としても活用策を検討していく考えです。残された校舎を有効に活用することは、地域にとって非常に重要なことと考えます。外部機関の意見を取り入れるなど、色々な方策を考えていきたいです。
Q	ミニ福祉会館(むつみ会館)の指定管理者(団体)として、管理費に8万円の交付金と老人会費を充て、施設の維持に努めている。ミニ集会所、イベント時の休憩所などとして地域で有効に活用してもらっている。しかし、昨年のお大雪により瓦が壊れたり、除雪費がかかたりしており、予定外に費用がかかった。市の財政状況が厳しいことは承知しているが、なんとか追加措置をとってもらいたい。
A	今年度から指定管理をお願いしていますが、昨年の実績を見て管理に必要な8万円を計上しました。雪の被害については、昨年度のところで対応させていただいたと考えておりますが、老人クラブと協議して追加対応していきたいです。
Q	波多小学校の校舎は新しいが、体育館は旧波多中学校のものを引き継いで小学校で使用しており、老朽化している。昨年度のお大雪の時には、雪の重みで潰れることなどが懸念されたため、一時使用禁止となった。しかし、そうした時にこそ、避難場所として活用することも考えられるので、体育館の新設をお願いする。
A	波多小学校の体育館は古いので、避難場所としては危険です。学校施設は、耐震化を進めていますが、早い時期での新築は難しい状況です。小学校統合後の地域で活用していただくことも考慮し、みなさまと検討させていただきます。
Q	定住対策に関連して、波多地区は高齢化率が50%を超えている。波多小学校の跡地を宿泊施設とし、農業学習体験を行ってどうだろうか。島根大学の学生などに参加してもらえば、地域の活性化につながると思う。交流人口が増えれば、満壽の湯やふれあいの里など波多地区にあるその他の施設についても、有効に活用してもらえる。
A	小学校跡地の活用も含め、地域外の人たちに来てもらえる施設とすることは、重要であると考えます。ご提言も踏まえ、地域活性化のための対策を講じて参ります。
Q	旧波多保育所を高齢者の施設として活用することを検討して欲しい。
A	旧波多保育所の活用方法については、今後検討いたします。

**【広報・広聴】**

**・市報うんなん**

Q	高齢者の立場から意見を述べると、市報を開いた時、活字が多いためあまり見ようと思わない。思い切ったイラストカットを入れるなど、興味・関心をかき立てる紙面とし、その中で難しい市政が分かりやすく表して欲しい。
A	いかに分かりやすい情報を提供していくか日々苦慮しているところです。ご指摘いただいたとおり、見る側の興味を引くような、見やすく、分かりやすい広報紙をめざし今後も努力していきます。
Q	市報に市長の巻頭言をいれてほしい。仕事以外の内容でエッセイのようなほのぼのとした市長の人柄が伺えるようなものを入れられても良いと思う。
A	巻頭言ではありませんが、「市長コラム」を毎回掲載しておりますので、ぜひご覧ください。掲載位置については、なるべく前のページに来よう協議・検討します。

**【その他】**

**・定住**

Q	少子化が進んでいるが、まず若者の出会いの場がなければ根本解決にならない。市で若者の出会いの場を創出するよう世話してもらいたい。
A	同じ要望がこれまで5回市政懇談会をした中で、3回くらい出されています。市内には結婚相談員の方もおられるが、個人情報保護のこともあって情報収集しにくい状況になっています。市でもそのような機会を設け、ホームページなどで周知を図っていますが、もっと市民の皆さまに情報が届きやすいよう周知方法を工夫します。

**産業・情報**

**【農林水産業】**

**・林道改良**

Q	民谷つづら畑線は、あと800mで工事完了というところで、工事が中断されている。今後の整備予定を聞かせて欲しい。
A	民谷つづら畑線は、民谷を起点とした全長4.4kmの林道で、平成12年度に着工したものです。しかし、着工後民谷周辺の道路事情が改善されていることもあり、現在は工事を休止しています。完了までに約2億円程度かかる見込みであり、来年度まで事業休止が決まっていますが、その後なんとか工事完了したい考えです。

**・農道整備**

Q	昨年、ふるさと農道の着工式があり、大変喜んでいて。反面、昨年度に比べ予算が大きく減額されているので、いつ完成するか心配もしている。何とか、早期に開通させて欲しい。
A	産業振興に関わる予算枠の内、まず生産性の高い施設を優先して予算配分しています。それらの施設整備が一段落すれば、その後農道等に予算をつぎ込みたい考えです。また、国や県の補助率の高い農道は財源が確保できるため整備しやすいですが、そうでないものについては、時間がかかることが予想されます。ご理解ください。

**【観光】**

**・観光地整備**

Q	龍頭が滝について、現在滝の案内看板がなく、たくさんの観光客が訪れても滝にまつわる伝説などを紹介することができない。設置してもらいたい。
A	掛合総合センターとしても観光振興の一環として協力していきます。
Q	八重滝を、雲南市の観光の南の玄関口として宣伝してほしい。遊歩道がいたんでいるので県に改良を要望してほしい。
A	遊歩道について、修繕必要箇所はすでに調査把握済みです。今年の雪での倒木による通行不能箇所については処理を行いました。遊歩道全体を一気に改良することは、困難な状況ですので、ご理解いただきたいです。

**教育・文化**

**【学校教育】**

**・クラブ活動**

Q	学校より、「補助金の削減で部活動予算が削られ、スクールバスを利用して遠征に行けない、部室の整備ができない」との声を聞くが実情はどのようになっているのか。
A	部活動でのスクールバス利用については、合併前の各町村における取り扱いが異なっており、それを平準化するために調整しましたが、昨年度の利用実績を把握し、有効活用できるよう工夫します。部室についても、各学校の実情を把握し今後の対応を検討します。



・**小学校統合**

Q	掛合小学校の統合に伴い、町内の4つの小学校が閉校する。地域振興補助金を有効に活用し、松笠地区でも閉校事業について検討したいと考えている。記念碑も建立したいが、これは補助対象とならないため、同補助金を充てることができない。そこで、そうしたハード面についても補助していただきたい。
	小学校閉校式典についてはどう考えているか。
	20年に小学校が統合するが、それに伴い、各地区で閉校・統合行事があると思う。波多地区でもそうした行事開催についてコミュニティ、PTAで協議しているが、残念なことに費用が足りない。行事への予算補助を教育委員会からしてもらいたい。
A	閉校事業については、地域の皆さんの知恵と工夫ですばらしいものとしていただきたい。市としても各地域や保護者の方々と協議し、できる範囲内ですが、協力します。保育所、学校跡地の利用に関しては、地域の皆さんの利に供するための活用方法を地域自主組織を中心に協議していただきたいです。市としても十分協力し、相談に乗ります。
Q	現在、掛合統合小学校については平成20年完成を目指して建設準備が進められているところだと思う。掛合地域は冬場の雪等気象条件が厳しい状況もあるので、出来るだけ早めの建設をお願いする。
A	地域のみなさまのご理解により、平成20年の完成をめざして順調に準備が進められています。直近では学校名や校章などを検討しているところです。国や県との調整しながら事業を進める必要がありますが、地域の皆さまの想いを十分尊重し、出来る限り早期に完成させたい考えです。

【**社会教育**】

・**子どもの居場所づくり事業**

Q	子どもの居場所づくり事業は各小学校区ごとに行なわれているが、掛合町の場合、小学校統合後はどのようなになるのか。
A	掛合町内の小学校統合までもう少し時間的猶予があるので、今後保護者等も含めて統合後の事業展開の方法について検討していきます。
Q	子どもの居場所づくりについて、波多集会センターでは、10人の子どもたちが活動しており、地区の高齢者も支援者として活躍している。この事業は本年度で終了するようだが、その後の計画はどうなるのか。
A	子どもの居場所づくり事業は、雲南市らしい施策の一つとして力を入れて行っています。今年で事業は一度終了しますが、文部科学省と厚生労働省で事業の継続が検討されており、来年度以降も引き続き行われる見込みです。しかし、国の補助内容等が変わっても、雲南市ではこれまでの実施内容を継承し、事業を進めたいと考えてます。とにかく19年度以降も事業が継続されるよう、まずは国へ要望して行きます。
Q	仮に来年度以降も子どもの居場所づくりが継続されるとして、小学校が統合すると事業の拠点は掛合小学校になるのか聞きたい。
A	現在は小学校単位で実施しており、各地域で十分な支援体制を整えていただいています。子どもは地域でふれあいを深め、その後家庭に帰ることが望ましいとの考えから、教育委員会としましては、現在の体制を保持したい思いです。しかし、小学校統合後は実施場所とスクールバスの運行とが密接に関わってきます。設置場所については、地域の代表と各PTAに入っただいただいている検討委員会において、地域の意見を踏まえ、検討して参ります。

【**その他**】

Q	財政が厳しい状況にあるからと言って、教育費を削減するべきではない。市の未来を担う子どもたちの育成を最優先に考えて欲しい。
A	教育にはしっかり投資するべきだと考えています。今年度の予算で枠配分以上の投資をしているのは教育費だけです。また、今年度は教育分室をなくしてもっと効率的な教育施策を進めたり、教育支援コーディネーターを配置し学校と地域、家庭のネットワークを強化したりしています。現在の市の教育水準を低下させることはあってはならないと考えています。

生活・環境

【交通・道路】

・市道改良

Q	市道松笠下組線の路線一部改良と、未舗装部分の舗装を要望したい。冬期間の除雪や火災などの緊急時に道路幅が狭く不便である。
Q	郡地区は40世帯程度の集落だったが、現在では「緑ヶ丘自治会」「上郡団地(緑ヶ丘団地)」「中郡団地」「下郡団地」と約100世帯(4自治会)となり、人口が急激に増加している。これに伴い、交通量も増えた。この地域の中心を走る市道(佐中郡線、郡下組線)については、2車線の新しい道路が整備されたが、国道への接続部分については、いまだ1車線で狭い。ついては、「郡」から「十日市」へ抜ける道路の拡幅整備をして欲しい。
A	市道改良整備については限られた予算の中で、現在継続中の道路から、順次整備していく考えです。それらの事業に目処がつき次第、雲南市全体で改良必要箇所の優先順位をつけ、新たな事業を進めていく計画です。 なお、軽微な修繕については現状を確認し、可能な限り対応していきます。
Q	市道大谷線において長年、頻繁に落石がある。同線沿線には高齢者が住んでおり、電動三輪車で通行する人もいる。対策を検討してほしい。
A	この件については、緊急を要するものであるため、総合センターとともに現状を調査し、何かしらの対応をします。
Q	除雪作業について、飯南町と連携をとり、効率化を図って欲しい。
A	昨年の大雪被害について、お見舞いを申し上げます。除雪についての具体的改善点をお聞かせいただき、今後効率の良い作業に努めます。
Q	昨年度、大雪の際の除雪作業では、十分な幅員がとられておらず通勤に困った。ロータリー除雪車を配備すれば、効率よく除雪作業が進み、かつカードレールや側溝などの道路施設も壊れないのではなか。
A	近年の温暖化により、年々降雪量は減っています。積雪量が少ない場合、グレーダーの方がスピードも速く、効率よく除雪作業ができます。昨年度のような記録的な大雪の場合、確かにロータリー除雪車が有効ですが、市として配備することは難しいです。昨年度も県や国もロータリー除雪車を借りて対応しました。当面は、国県の協力を得ながら、グレーダー、スノーダンプを中心として対応していく考えです。
Q	市道福田線の福田橋から300mの間、土側溝で路面が沈下しており、内側には土砂が溜まっている。雨が降れば、路面に水が出るし、冬には路面が凍結する。勾配もあり、危険なのでコンクリートの側溝に改善できないか。
A	現場の状況は確認しておりますが、市道改良については雲南市全体で優先順位をつけ、対応している状況です。総合センターへも地域要望として上げていただきたい。
Q	市道柄栗線では、落石のある所が1カ所ある。付近に約40名が住んでおり、8名の子どもがいる。安心して通行できるよう、落石防止対策をお願いする。
A	市道改良については雲南市全体で優先順位をつけ、対応している状況です。総合センターへ地域要望として上げていただきたい。

・県道改良

Q	県道宮内掛合線の改良工事について、数年前から継続してお願いしているが、なかなか実現しない。市としては県へ要望する気持ちがあるのかどうか。
A	約300億あった県単独の事業費が、ここのところの財政難により20億程度まで落ち込んでいます。また国道54号へ接続すると、国道側に右折レーンが必要となり、工事が難しく、国交省との協議が遅れています。さらに町の中への大型工事車両進入が困難であり、工事自体が可能かどうか不明確な状況です。市としては、最重要路線と位置付け、この改良工事が実現するよう、県へ色々な方向で継続要望していく考えです。 寺谷工区については、従来どおり代替道路をふるさと農道として進めています。進捗状況が遅く申し訳なく思っていますが、今しばらくお待ちいただきたいです。
Q	県道川本波多線の歩道の整備について、刀根から小学校前までは整備されているが、引き続き小学校から波多温泉までも整備して欲しい。路側帯が狭く歩く余地がない。急カーブで見通しが悪く危険な箇所もあり、昨年歩行者の事故もあった。誰もが安心して利用できる環境にして欲しい。
A	川本波多線の交通安全施設工事は、14年から始まり18年までに完了する予定です。鳥根県も厳しい財政状況であり、昨年度も40程度の路線が事業を休止しています。従って、ご要望の歩道延長についても、早期に実現するとは言い難い状況です。しかし、ご指摘のとおり危険箇所もありますので、継続的に県と協議していきたいと考えています。

Q	県道川本波多線の上刀根地内で4年前の水道管埋設工事をされた際、道路に継ぎ目ができ、夜間、車が通ると音がし、振動もあるので改善をお願いしたい。
A	水道管の支障移転で悪い部分は、雲南県土木事務所に確認してもらい補修等の要望をします。
Q	県道川本波多線の工事により、波多神社前のセンターラインが曲がっている。長期に渡り曲がったままとなっているため、何らかの安全対策がとれない者か。
A	工事に際しご不便をおかけしますが、歩道がつくまでの間もう少しご協力ください。ご意見は、県へも伝えます。

### ・市民バス

Q	市民バス吉田大東線は1日7便が運行されており充実している。しかし、波多地区には吉田大東線の乗り入れがなく、地域間の公平性に欠けていると思う。時刻改定に併せて、乗り入れを検討して欲しい。
A	市民バス吉田大東線は、合併1ヶ月前より運行を開始しており、現在吉田・大東間(木次又は加茂経由)を1日7便が運行しています。この路線は国道54号など主要幹線沿いを走っているため、市民の皆さまには合併前より各町で運行していたバス路線から乗り継ぐなどしてご利用いただいております。(掛合町に当てはめると、「だんだんタクシー」を利用し、吉田大東線へ乗り継ぐこととなります。)吉田大東線を波多地区で運行させることは運行時間調整の面で難しかったため、だんだんタクシー側の運行を見直し、本年度より吉田大東線への乗り継ぎができるよう調整を行いました。今後もだんだんタクシー側を調整する方向で、吉田大東線を上手く利用していただけるよう工夫していきます。
Q	飯南町から医大、中央病院行きのバスが通っている。丁度波多地区を通過するのでよく利用している。このバス路線が存続するよう飯南町へお礼と要望をして欲しい。
A	もともと志津見ダム建設工事関係の迂回路として波多地内を通過していましたが、引き続き波多地区を回るよう要望し、工事終了後も現在のルートで運行していただいています。昨年もコミュニティ会長と一緒に路線存続をお願いして参りました。飯南町側もバス及び飯南病院の利用促進につながると言っておられ、互いの利益となっているようです。補足ですが、だんだんタクシーを活用して掛合診療所もご利用ください。

### 【上水道・下水道】

#### ・上水道

Q	松笠地区では河川水を水源としており、大雨のときなどには取水口に砂がつまり復旧に大きな労力を要する。今後、地下水を水源とする考えはないか。
A	松笠地区では河川表流水を浄水池に取り入れ、ろ過し、上水道としています。現在掛合地区の連坦地への給水を支える佐中浄水場が老朽化しており、施設の新設を計画しています。これに並行し新たな水源を探していますが、約1,000t/日が必要となるため、条件を満たす水源がなかなか見つからず、現在、吉田川の水利権取得をめざしているところです。これを取得し、新水源を確保できれば、新浄水場を建設し、松笠地区へも上水道を給水できます。将来的には大谷・菅原浄水場を新浄水場に統合する方向で検討を進めています。

### 【消費者・人権・生活】

#### ・郵便局

Q	郵政民営化に伴う郵政業務改革について、市として、波多地区郵便局の存続の働きかけをして欲しい。
A	現在、郵政の見直しにより、集配局が見直し・統合されています。雲南市でも鍋山、飯石の両集配局が三刀屋に統合されました。しかし、郵便局については、そうした動きはなく、旧町村に1箇所残すという方針のようです。こうした考え方がしっかり堅持されるよう郵政に対して要望していきます。
Q	合併前に、郵便局で住民票交付を受けられるよう陳情したが、実現しなかった。実現すれば高齢者や総合センターから離れたところに住む者にとっても有益である。最近、奥出雲町でも導入されているようなので、雲南市でも実現に向けて検討して欲しい。
A	雲南市は電子自治体を目指していますので、自宅から直接住民票の交付を受けられるようなシステムを構築していく必要があると考えています。同時に、今回ご意見のあった、郵便局での住民票付についても、並行して協議を進めていこうと考えています。